

活動名 金沢外国人観光客案内プロジェクト

団体名 バス NAVI し隊

代表者名 西野 優

はじめに（背景・目的・目標）

新幹線開通以来、金沢市には、多くの観光客が訪れている。その中には、外国人観光客も含まれている。そうした外国人の多くは、日本語ができない。彼らの多くは、スマートホンで観光スポットや交通手段の検索をし、現地に赴いている。

スマートホンを利用することにより、日本語ができなくとも日本国内を旅行できるが、金沢市内での観光においては、彼らはかなりの不便さを経験していると推測できる。彼らが利用する交通手段がもっぱらバスであり、バス停の行先表示が漢字である上に、複雑であること、また、バスに表示される行先が日本語であるため読めず、バス停において当惑しているように見える姿が散見されている。こうした外国人観光客が経験する不便さを軽減できないかということから、人文学部の3ゼミで、英語によるバス停案内が6月に実施された。金沢外国人観光客案内プロジェクトは、この活動を発展させた形で行おうと計画したものであった。

活動内容と成果

外国人観光客がバスを利用する際の言語による困難さを解決することを目的にしたこの活動では、まず、外国人観光客からアンケートを取り、バスを利用するにあたり便利な点、不便な点を調査した。便利な点としては、バリアフリーが設けられているバスがあることや内装がきれいなど、細かいことから、バスの本数が多いこと、観光用の周遊バスが多く運行していることまで挙げられた。不便な点としては、私達が予想していた通り、バスの標識に英語の記載などが少なく分かりづらいことやバス停の乗り場が多くて複雑であることが挙げられていた。元々の計画としては、アンケートや調査の結果を踏まえてバス停に英語表記の看板を設置して外国人観光客のためにバスの利便性向上を図るものであった。

しかしメンバーの都合が合わず、共に活動することが困難であった。そのため、看板を作成し設置することができないと判断したのでメンバーがバス停へ赴き、外国人観光客に直接英語でバス案内を行った。毎日バス案内を行うことは難しかったが、私たちがバス案内を行った日に多数のメディアにも取り上げられ、メディアを通して案内した観光客のバス案内の感想を聞いた。学生ボランティアでもバス案内をしてくれる人がいるだけで非常に助かり、観光がスムーズに行えるという内容であった。こうした感想から今後も私達のような活動を行う団体が増えていくと金沢の観光がより一層活性化していくと考える。

今後の課題、展望

バス案内を行っても毎日や毎週末続けない限りはバスの利便性を向上させることは難しい。そのためにもバス停に英語表記の看板を設置することを目標に置いていたが、私たちは行うことができなかった。そこで、他の学生達が金沢の観光を活性化させるためにグローバルランゲージサポートというサークルを立ち上げた。そのサークルに自分たちの活動を引き継ぐという形で今後もこの活動を行っていきたい。